

あしづみ版画（合板リトグラフ）の実践

版画の種類	合板リトグラフ	学校名	浜田市立岡見小学校		指導者	福間 亨
題 材 名	主人公になったつもりで（お話の絵）		学年	3・4年	時 間	4時間
題材のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・お話を聞き、自分が主人公になったつもりでイメージを広げて構想する。 ・お話の内容をもとに自分の表したいことを思いつき、工夫して版に表す。 					
版画の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 木版など他の技法では、版をつくることに多くの時間を費やすが、この技法では描画した線をそのまま刷れるので、比較的短い時間で済む。また、イメージどおりに表すことができる。 ・ プレス機で刷る代わりに足で踏んで刷るので、刷る楽しさを体で味わうことができる。 ・ 水彩絵の具やスタンプ等を加え、デザイン的に仕上げることもできる。 ・ 必要なものが揃い、構想までできていれば、全体の製作時間もそれほどかからない。 					
準備	固形ペンキタイプのマーカー、段ボール用のマーカー、片面に整面剤塗布したラワンベニア・大判、版画和紙、ガム液（アラビアゴム）、スポンジ、ナイロン製のブラシ、油性版画絵の具、新聞紙、ゴムローラー、水彩絵の具道具、好みのスタンプ					

授業のながれ（写真の作品は教師が研修会で作成したもの）	ワンポイントアドバイス・裏技
<p>1 お話の世界を楽しみながら聞く。</p> <p>① イメージをふくらませながらお話を聞く。</p> <p>② お話について感じたことを話し合う。</p> <p>2 自分の思いや話し合ったことを参考にしながら、下絵をかく。</p> <p>3 版をつくる。</p> <p>① 版に絵をかく。</p> <p>② ガム液を塗る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 版の全面に指を使ってムラなく塗るようにする。 ・ 塗り終わったら、うちわ等で完全に乾かす。（乾くときにマーカーと液が反応を起こす） <p>③ ガム液を落とす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ガム液の膜をブラシでこすって水で洗い落とす。とくにマーカーで描画した線に液膜が残っていると、イン 	<p>ワンポイントアドバイス・裏技</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お話を読む声の大きさや強弱を工夫したり、いろいろな表情や身ぶり手振りを交えたりしながら読む。 ・ 下絵は、イメージをはっきりさせるためのものと考え、どこに何を書くかという程度にとどめる。あくまでも大まかに。 ・ カーボン紙で転写するのではなく、下絵に表したことを、固形ペンキタイプマーカーや段ボール用のマーカーを使ってかいていく。（仕上がりが反転してもよければ、そのままかく。下絵と同じ向きで仕上げるなら、反転させてかく。） ・ 強くこすりすぎて版を傷めないように気をつける。

クがつきにくいので入念に。

4 版を刷る。

- ① 版画絵の具（油性）をのせる。
- 水を含んだスポンジで常に版に湿り気を与え、油性インクをローラーでつけていく。
- ② 色をつけたい部分に、水で薄めにといた水彩絵の具をスポンジや筆でつけていく。そして、もう一度、ローラーでインクをつける。
- ③ 湿らせた紙を版の上に置き、その上に新聞紙をのせて、足で強く踏む。
- ④ そっと版から紙をはがし、完成。

5 作品は乾かした後、台紙に貼る。



6 後片付け

- 1回目より2回目、2回目より3回目とインクをのせていくにつれて、色が濃くなり、版が安定する。
- 練り板の代わりに、マニラボール紙を使うと片付けが簡単に済む。
- 全面に体重がかかるようにする。
- スティックタイプののりだとしわになりにくい。
- 好みで描画をしたり、スタンプ等を押したりして仕上げるのもよい。
- ローラーは新聞紙の上で転がし、大まかにインクを落としたのち、灯油をつけ、雑巾で拭くようにするときれいに落ちる。

5 発展

- 片面に整面剤塗布した大きいラワンベニアが手に入れば、学級で共同作品としてつくることも可能かもしれない。

6 ひとことアドバイス

- 制作に必要な次の道具は、教材を扱う店かネットで揃う。
 - ア 固形ペンキタイプのマーカー … 1本 300円前後
 - イ 段ボール用のマーカー … 1本 400円前後
 - ウ 片面に整面剤塗布したラワンベニア … 小判（22.5cm×30cm）10枚入りと、
大判（30cm×45cm）5枚入りがある。いずれも1300～1400円。
 - エ ガム液（アラビアゴム） … 1本 1300円前後（500ml）
- アのマーカーは、児童2人に1本くらいあればよい。イのマーカーは学級で何本かあればよい。